

みのげこばやしせいせき
蓑毛小林遺跡

秦野市No.154 遺跡

調査期間 2013年12月1日～継続中
所在地 秦野市蓑毛
時代 近世・中世・奈良・平安・弥生
縄文
調査原因 中日本高速道路株式会社による
新東名高速道路建設事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線秦野駅から北方
3.6kmに位置する。



主な調査成果

調査は2013年12月に、工所用道路部分（Ⅰ区）を先行して着手しました。

遺跡は金目川の左岸、東側には小蓑毛沢が流れる丹沢山地の麓、丘陵部から続く緩やかな南斜面に位置しています。標高は199mです。調査では、中世、近世の畝状遺構、平安時代の円形土坑が発見されています。それ以前の時期は、縄文時代後晩期から弥生時代にかけての落とし穴と縄文時代中期以前の落とし穴が多数見つかリ、落とし穴を使った狩猟活動が行われていたことが判明しました。旧石器時代のグリッド調査を行いました。遺物の出土は見られませんでした。ローム層の堆積状況からは、B0層で河床礫が検出され、現在の比較的平坦で、緩やかな南斜面とは違った地形であったことが明らかになりました。これからⅡ区、Ⅲ区と調査範囲を広げていく予定です。



畝状遺構（近世）



落とし穴（弥生）

※底に縄文時代の落とし穴の覆土が確認
できます。



落とし穴（縄文）

※弥生時代の土坑と重複しています。